



生きている只見の民俗 「^{ざかい}ムラ境の民俗」



▲護摩札（令和8年1月28日撮影）

只見町には27の集落がありますが、いずれも合併前の旧村が原型となっています。今でも集落ごとの行事や方言などに違いが見られ、それぞれに個性があります。只見川や伊南川に並行する道路で車を走らせていると、集落が現れては、途絶え、また別の集落が現れ、といった景色が続きます。

最近、国道289号沿いに車を走らせていると、小林集落と梁取集落の境付近にあるスギ林の中に何か白いものが見えました。気になって車を路肩に止め、近くまで寄ってみると、スギの幹に札が張り付けられていました。小林区にある新福寺の護摩札です。小林区の方に伺うと、これは集落への悪霊・悪疫の侵入を阻止するもので、毎年、小林区が立てているものだそうです。このように只見町ではムラ境の民俗がまだ生きているようです。こういうものが現代でも見られるというのが只見町の面白さであり、魅力ではないでしょうか。

只見町ブナセンターからのお知らせ

■アーカイブ企画展「哺乳類とその生態」

期間：12月6日(土)～3月30日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

■只見町ブナセンター観察会「豪雪のブナ林観察会」

日時：2月21日(土) 9:30～12:00

場所：余名沢の森（集合：湯ら里駐車場）

お申込み・問い合わせ 只見町ブナセンター 0241-72-8355